

# 調査速報

## 道西日本海(檜山海域)スケトウダラ資源調査結果

2013年 1月 8日

北海道立総合研究機構 函館水産試験場 (0138-57-5997)

○2012年12月11日～18日に函館水試調査船金星丸を用いて道西日本海海域(檜山海域)のスケトウダラ資源調査を実施したので、結果をお知らせします。調査速報は、下記の函館水試ホームページからご覧になれます。

<http://www.fishexp.hro.or.jp/exp/hakodate/>

- スケトウダラ魚群は延縄漁場とその周辺を中心に分布し、沖合域では少なかった。
- 魚群の分布水深はおよそ 250～450mであった(夜間)。
- 計量魚探による漁場とその周辺の魚群反応量は、2002 年以降、もっとも少なかった。
- トロール調査の漁獲物の体長は 40～45cm 前後のものが多かった。
- 水深 150m以深の水温は、江差沖と上ノ国沖では 2006 年以降で最も高かった。乙部沖では 2008 年に次いで高かった。

### ● スケトウダラ魚群の分布

#### ・ 水平分布(図1, 2)

調査海域全体では、魚群の分布は熊石から上ノ国にかけてのスケトウダラ延縄漁場とその周辺に見られました。また今年は大成沖の魚群の分布が多かったのが特徴でした。この大成沖の魚群分布は2011年の1.6倍でした(図1)。

スケトウダラ延縄漁場内では、爾志海区(熊石沖～乙部沖)で多く、江差沖と上ノ国では少ない昨年と同じパターンになっていました(図2)。

以上の他に、奥尻島の南側の沖合海域でも調査を行いました。魚群の反応は、ほとんど見られませんでした(松前小島付近は荒天で調査は実施せず)。

#### ・ 鉛直分布(図3)

魚群の分布は、①(42° 02.5N線)で水深220～450mと昨年(180～360m)より深め、②(41° 57.5N線)では水深250～480mと昨年(200～450m)よりやや深め、③(41° 52.5N線)で水深280～500mと昨年(400～450m)より広い範囲に分布し、④(41° 47.5N線)では水深220～430mで昨年(320～400m)より広い範囲に見られました(図3 夜間の調査結果)。

なお、水深70～150mの範囲に層状の強い反応が広い範囲で見られた。これは反応のパターンやトロール調査結果から、マイワシなどの浮魚類主体のプランクトン混じりの反応と考えられ、スケトウダラの反応ではありませんでした(図3)。

### ● スケトウダラ延縄漁場周辺の魚群反応量(図4)

檜山沿岸域(スケトウダラ延縄漁場周辺)の2012年の魚群反応量は2002年以降では最も少なく、2011年同期の57%でした(図4)。北寄りの乙部～江差海域は2011年より少なく、上ノ国沖はやや多かったです。なお今回、反応が多かった大成沖を含めると、2011年同期の85%でした。

### ● トロールで漁獲したスケトウダラの大きさ(図5)

相沼沖で行った着底トロール調査では尾叉長40～45cmの2006年級群と思われるスケトウダラが多く漁獲されました。2011年の結果と比較すると、2012年は45cm主体で2011年(40cm主体)より大きかったです。

### ● 水温環境(図6)

スケトウダラ延縄漁場周辺の乙部沖、江差沖、上ノ国沖などで水温の観測を行いました。水深150m以深では江差沖と上ノ国沖では2006年以降で最も水温が高くなっています。乙部

沖では2008年に次いで高くなっています。沖合寄りの奥尻島南東沖の水温は80m以浅では2006年以降で最も低く、120~250m層では2008~2011年より低くなっています。江差沖や上ノ国沖の高水温は対馬暖流が沿岸寄りに流れているため、と考えられる。



図1 調査海域全体の魚群の水平分布 (2012年12月)

- の大きさが魚群反応量を示す
- : すけとうだら延縄漁場
- : 海洋観測点 (図6参照)

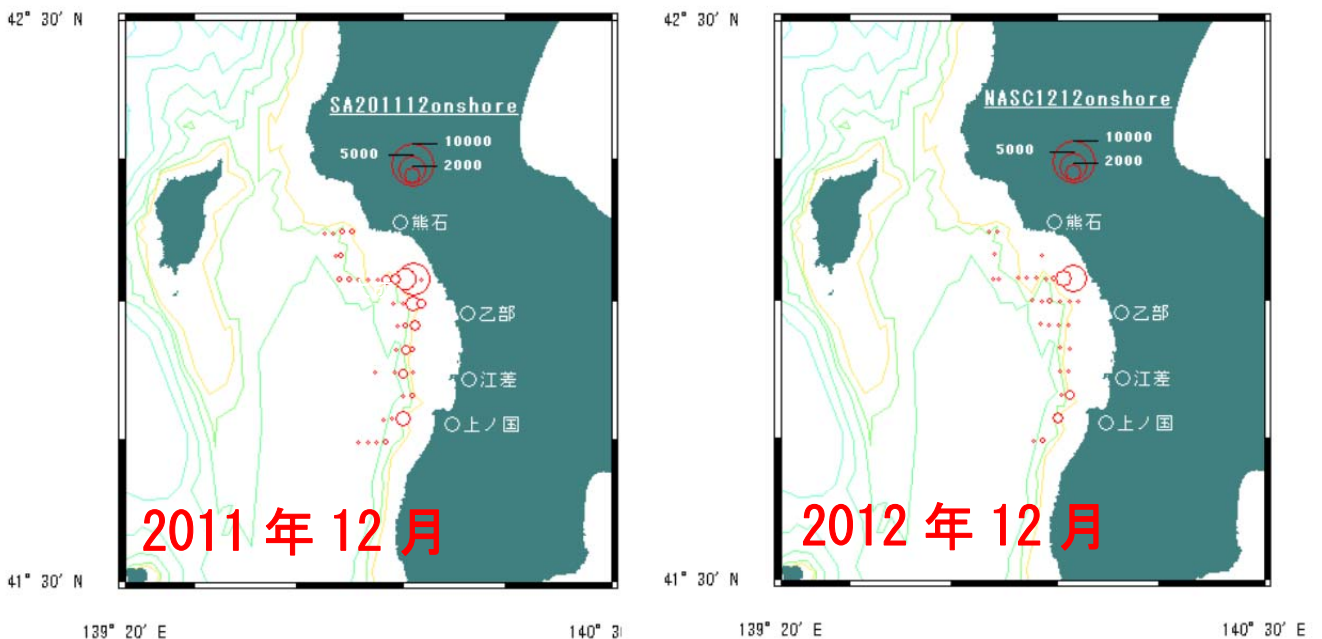
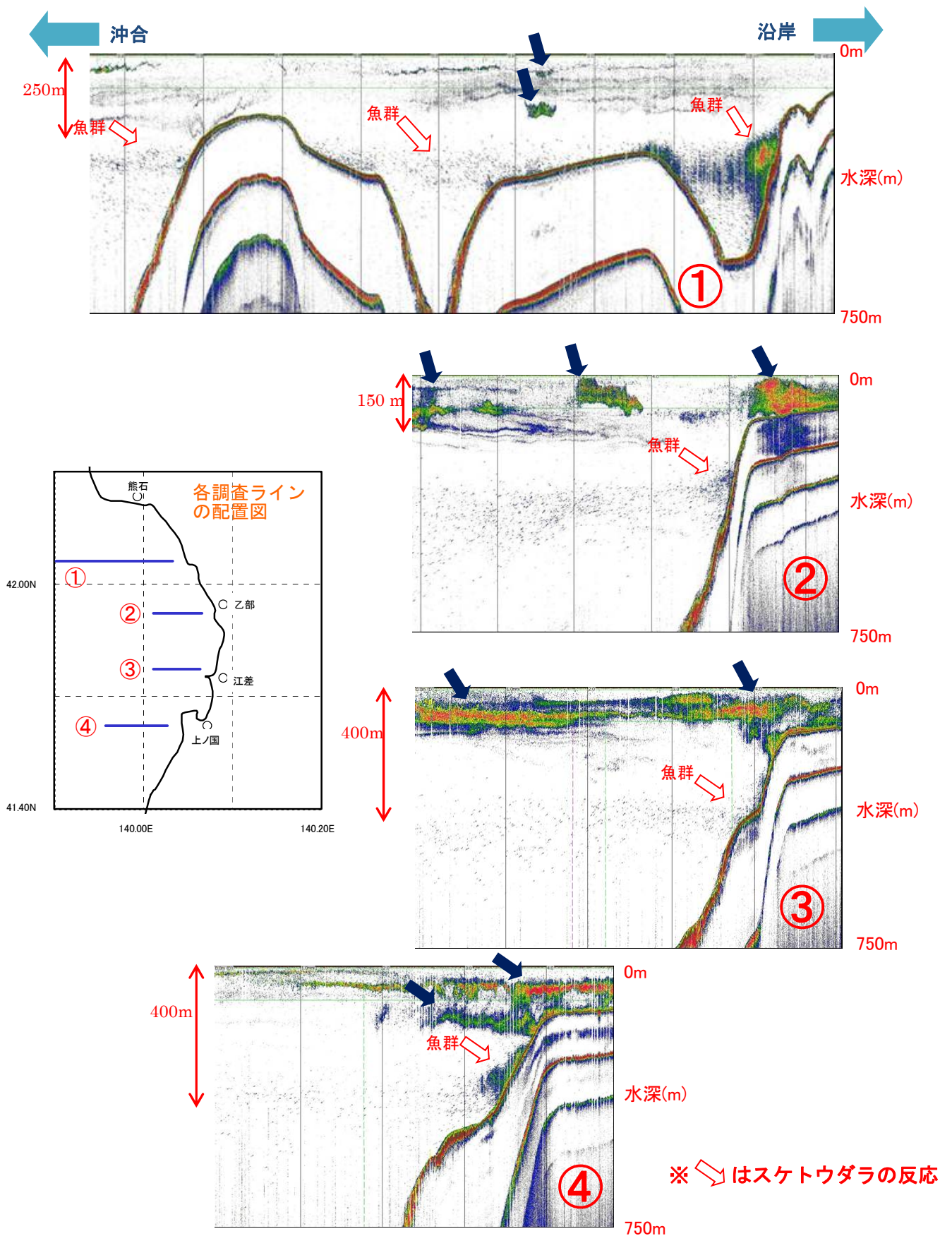


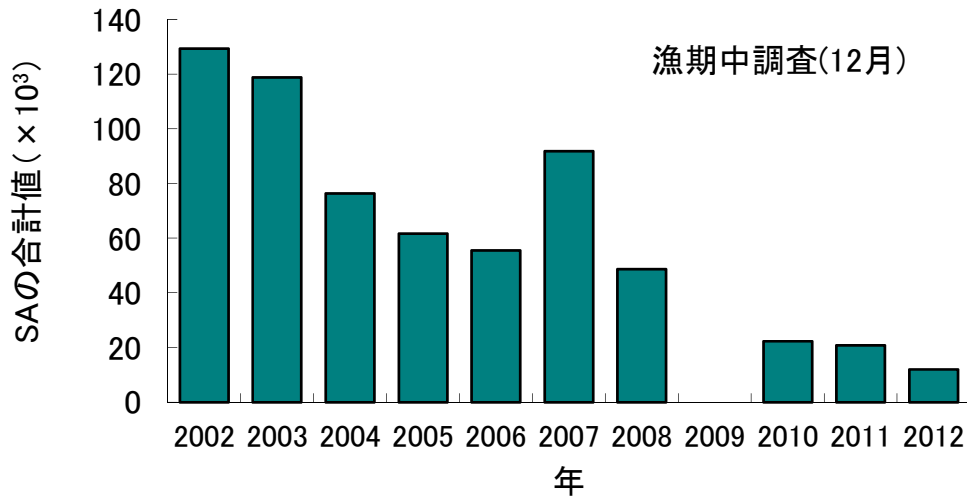
図2 すけとうだら延縄漁場とその周辺の魚群の水平分布 (左: 2011年, 右: 2012年)

- の大きさが魚群反応量を示す



※表面～150mぐらいに見られる濃いオレンジ色や黄色の層状の反応（↘）はマイワシなどの浮魚類主体と考えられ、スケトウダラの反応ではありませんでした。

図3 各調査ラインにおける魚群の鉛直分布（夜間に調査を実施）



※2009年は荒天で調査できず

図4 延縄漁場とその周辺(図2)の魚群反応量の年変化

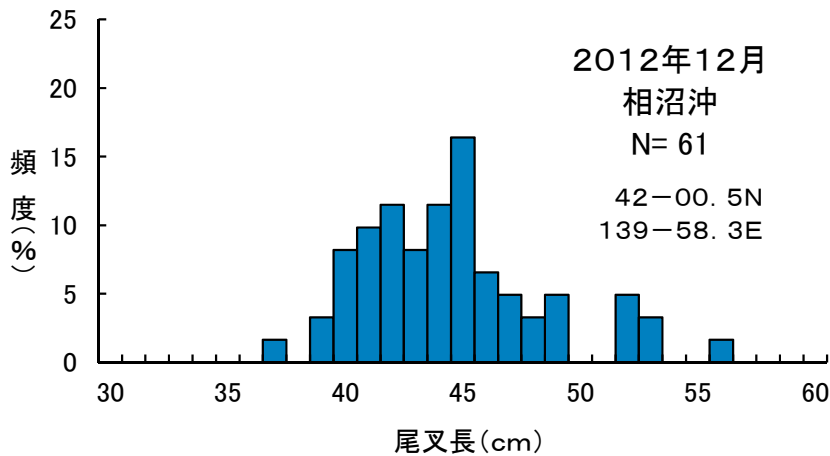
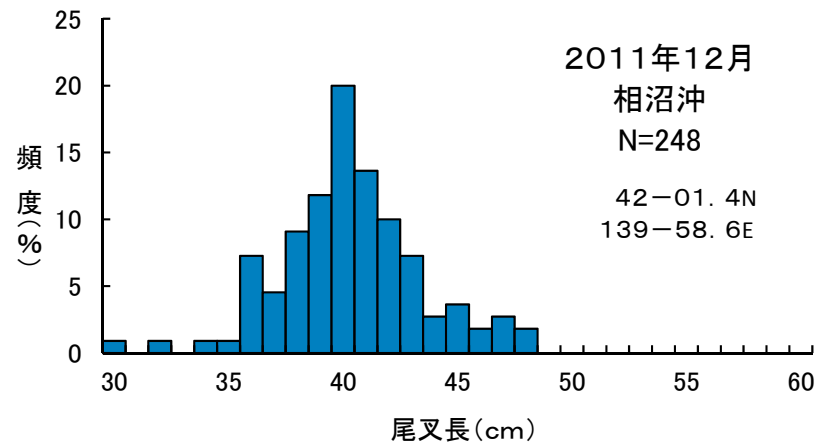
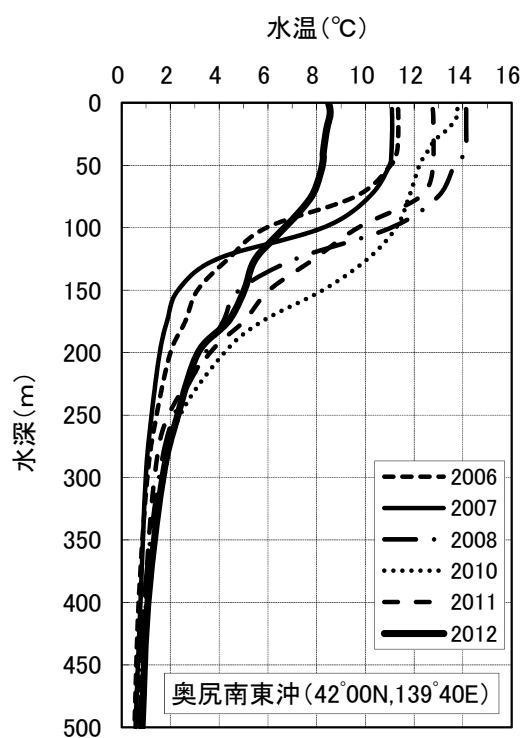
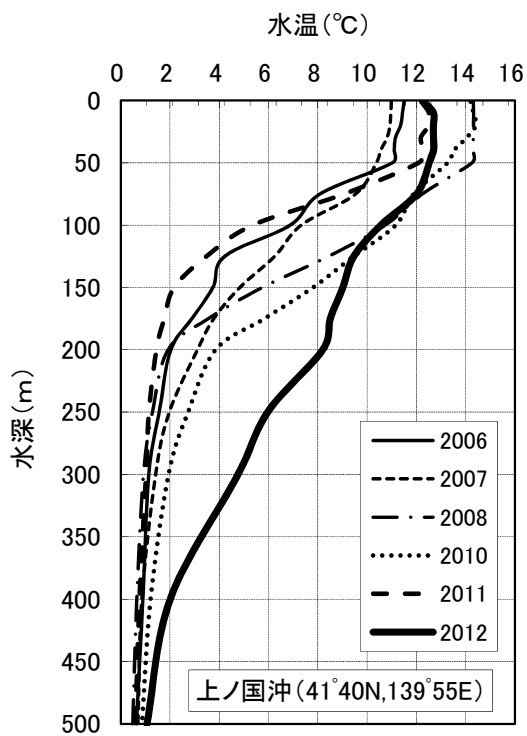
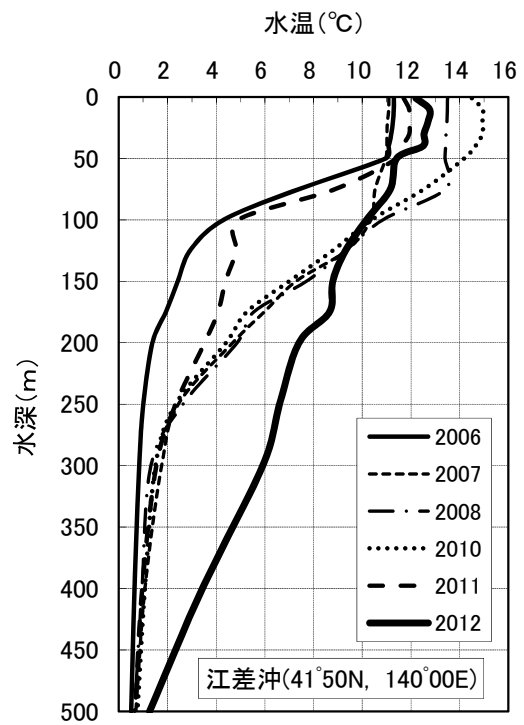
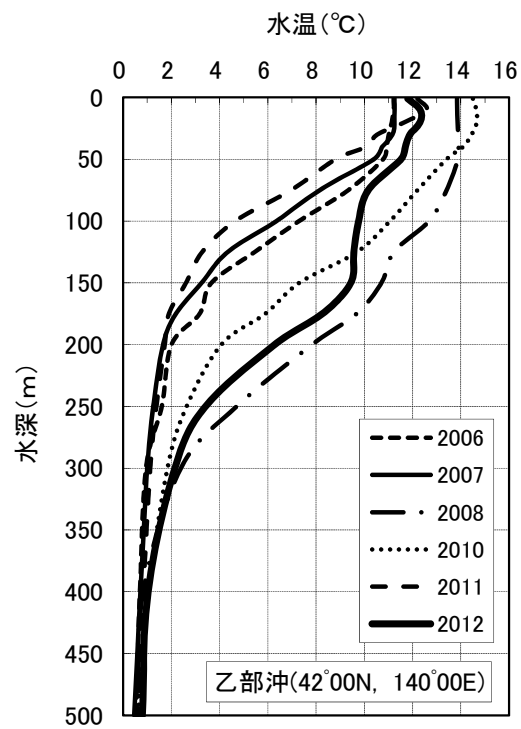


図5 着底トロール調査で漁獲したスケトウダラの大きさ (上: 2011年 下: 2012年)



※2009年は荒天で調査できず

図6 乙部沖(左上), 江差沖(右上),  
上ノ国沖(左下), 奥尻南東沖(右下)  
の水温分布(図1の海洋観測点)